



きらくなたより

発行者 鈴木 忠好

発行月 R2年5月

No. 36

♪白い花が咲いてたあ〜♪



騒がしい世間をよそに、桜、藤が咲き終わり、自然界は美しい緑の季節になってきました。

ヤマボウシ、ハリエンジュ等、これからは白い花の季節です。

道端に目をやれば、白や薄いピンクのハルジオオン、ヒメジオオン、黄色のボタンサマダ(ボタン、タンポポモドキ)が美しいです。

行動が制限されるなか、日々の散歩が欠かせません。ご夫婦仲良く散歩を楽しんでいる方もよく見かけます。「眼だけ、鼻口なし」人間ばかりですが楽しそうです。

毎日同じ道を歩いていても、その都度いろいろな発見があるものです。きらくな畑でも、じゃが芋が大きく育っていました。

「新型コロナウイルス」聞き飽きたので、略して「しんコロ」

しんコロのせいで学校に行けない子供達が可哀そうです。学力よりも心が育たないのが心配だと言つ一年生のお母さん。進学なのにどうなるのだらうと心配する中三さんのお母さん。早くどうにかなるといいですね。

我々高齢者に残された時間は多くはありません。貴重な時間を有意義に使いたいものです。

3か月振りの活動！

きらくな畑にさつま芋の苗と、カボチャの苗を植えました。きらくな会もほぼ3か月ぶりの活動です。もちろん新しい生活様式にのっとり、マスクを着用しての作業です。眼だけしか見えませんが、そこはそれ永年の付き合い。「眼は口ほどに」ものを言います。久しぶりの青空の下、いい汗を流しました。これがみのある頃、しんコロも収束し、子供たちの元気な笑顔が見られるでしょう。



ようやくマスクが…

総理肝いりのマスクが届きそうです。国会の中継など見ていると、多くの議員達が顔の隠れそう

な大きなマスクをしています。総理だけ小さいマスクを何度もずり上げながら答弁している姿を目にします。ご本人も本当はもっとでかいマスクをしたいこと

でしょう。巷間、いろいろとささやかれますが、米国、ロシア、ブラジル等の指導者と比べれば、良くやっていると思います。

芝桜が美しい土手になるかも。

少し前の事です。集会所脇の土手の一角にピンクと白の芝桜が咲いてました。どう見ても自然に生えたとは考えられません。きっとご近所のどなたかが植えてくれたのでしょ。何年かたってあの土手一面に白やピンクの芝桜で埋め尽くされるかもしれません。



いかりそう、チゴユリ竹藪の遊歩道付近に咲いてました。



しんコロ対策にも国民性が出るようで面白いですね。経済優先であとは出たとこ勝負の国もあれば、日本のように大都会東京の人も、地方都市の隅に住んでいる緑ヶ丘の人も、同じ様に決まりを守って生活している国もあれば様々です。当分の間、「新しい生活様式」とやらに慣れるしか仕方がないでしょう。